

1	東川町立東川小学校 外6校(園)	H29～R3
---	------------------	--------

## 令和2年度研究開発実施報告書（要約）

### 1 研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発。

### 2 研究開発の概要

自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際性」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図る教科として、「Globe」を創設し、国際教育における初等中等教育の一体的な教育課程の在り方を探る。

具体的には、次の3点の研究を行う。

- ① 新教科「Globe」の創設と指導内容、指導方法及び評価方法の在り方
- ② 幼、小、中、高における国際教育や英語教育（コミュニケーション能力）の接続の在り方
- ③ 外国語に慣れ親しみ、異文化理解を深めるための地域人材（15か国のJETスタッフ、9か国の日本語学校留学生）の有効的な活用の在り方

### 3 研究の目的と仮説等

#### （1）研究の目的

ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に適用するコミュニケーション能力を育成するため、新教科「Globe」を創設し、指導内容、指導方法、評価方法の在り方を探る。

#### （2）研究仮説

国際教育を中核とした新教科「Globe」を創設し、指導内容、指導方法及び評価方法を体系的に構築することにより、自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育むことができる。

#### （3）教育課程の特例

- ・国際教育を中核とした新教科「Globe」の設置
- ・新教科「Globe」のため、各教科、および総合的な学習の時間を一部削減

### 4 研究内容

#### （1）教育課程の内容

##### ① 「Globe」カリキュラムについて

自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育むことができる。

新教科「Globe」は、「ローカル」「グローバル」「コミュニケーション」の3要素で構成し、グローバル化に対応する資質・能力を育むことを目的に、幼稚園・小学校・中学校・高等学校にお

けるカリキュラムを編成した。

「ローカル」要素：自国や地域の文化や伝統に根ざした自己の確立を図る。  
(自己理解、郷土理解)

「グローバル」要素：多様な文化を受容し、共生することのできる態度を育成する。  
(異文化理解、多文化共生)

「コミュニケーション」要素：文化の異なる人々との英語をツールとしたグローバル社会で求められる円滑なコミュニケーション能力を育成する。  
(コミュニケーション)

### 【幼稚園】

～日常の保育の中に ALT が参加し、英語を通して触れ合う 4 歳児～  
～Globe として年間 10 回の授業を 2 名の ALT が主体となって進める 5 歳児～

目指す子供像

『他の国の人と触れ合いながら外国語に慣れ親しみ、友達と仲良くする子供を目指す』

### 【小学校】

～Local・Global・Communication 要素を取り入れた英語を使う必然性のある単元デザイン～  
～必ず ALT が常に入り、2～3 人体制で行う Globe 授業～  
～Local/Global 要素の資質・能力を育む外部人材活用～

目指す子供像

- 『様々な国や文化について理解し、誰とでも寛容的で協力的な態度で接する子供を目指す』
- 低学年～他の国、人、友達との出会いを楽しみ、英語などを使って、自分のことを伝える子
  - 中学年～他の国、人、友達のよさや違いを見つけ、英語を含めたコミュニケーションの方法で自分の思いや考えを伝え合う子
  - 高学年～他の国や文化、友達のよさや違いを受け入れ、自分の考えを伝え合う子

### 【中学校】

～生徒の興味・関心を高め、世界の諸問題を考えられる単元デザイン～  
～Communication 要素の充実に向けた即興的なやり取り～  
～Local/Global 要素の充実に向けた地域資源・人材の活用～

目指す子供像

『世界の諸問題を自分と結びつけて考え、解決方法を探り、自分の意見を発信する生徒を目指す』

### 【高等学校】

～4 期に分け、段階的に学習を進めることができるカリキュラム～  
～Local/Global 要素の充実に向けた地域資源・人材の活用～

#### ① 目指す子供像

『自己と世界とのつながりを意識した上で、どのように社会に関わっていくかについて、主体的かつ建設的に考え、意思決定し行動する生徒を目指す』

## ② 幼・小・中・高の連携について

### ・幼稚園から小学校への接続

幼稚園で学習してきた「色 (colors)」や「果物 (fruits)」、「体の部分 (body)」などを小学校で活用することで「英語を知っている」や「英語の活動が楽しい」と感じることができるなど、小学校との円滑な接続ができるようカリキュラム編成を行っており、小学校のGlobeへの学習意欲につながっている。

### ・英語教育の接続

小学校4校から全員が東川中学校へ入学することを踏まえ、各小学校でクラスルームイングリッシュを統一した指導の充実を図ることにより、中学校への円滑な接続を図る。

今年度から

### ・国際教育の接続

## ③ 地域人材の活用について

本町には、JETプログラム (The Japan Exchange and Teacher Program) スタッフ19名や日本語学校留学生など、本町には豊富な外部人材がいる。5名のALT (Assistant Language Teacher 外国語指導助手) による外国語活動や外国語の授業、3名のSEA (Sports Exchange Advisor スポーツ国際交流員) による体育や少年団活動及び部活動 (クロスカントリー、野球、バレーボール)、11名のCIR (Coordinator for International Relations 国際交流員) によるイベント参加や国際交流活動、さらには留学生との交流などができる環境にある。

### ねらいに応じた外部人材の活用について

- |               |                                  |
|---------------|----------------------------------|
| (ア) 地域の日本人    | ～東川町や日本のよさを知る (または、再確認することができる)。 |
| (イ) 日本語学校の留学生 | ～英語 (簡単な日常会話) や日本語による異文化交流       |
| ◇ CIR         | ～主に日本語による異文化交流                   |
| ◇ ALT、SEA     | ～英語による異文化交流                      |
| ◇ 異校種の児童・生徒   | ～英語を通じた交流                        |

## (2) 研究の経過

第1年次	<p>『グローブ(Globe)』推進のための組織づくりとカリキュラム作成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 研究開発学校指定の4年間を見通した研究の骨子の作成<ul style="list-style-type: none"><li>・研究組織 (グローブ推進チーム、運営指導委員会) の設置</li><li>・研究計画 (内容、方法、評価) の作成</li></ul></li><li>○ 新教科『グローブ(Globe)』のカリキュラム編成<ul style="list-style-type: none"><li>・各学校種間における接続を意識したカリキュラムの作成</li><li>・『グローブ(Globe)』における3要素構成の内容検討</li><li>・コミュニケーション要素 (外国語活動、外国語科) の系統的 (幼・小・中・高) な指導方法の検討、外国人の効果的な活用場面等の検討</li></ul></li><li>○ 評価方法の検討<ul style="list-style-type: none"><li>・児童生徒、学校、学校関係機関、保護者地域住民等による評価の在り方の検討</li><li>・英語能力調査 (中学校・高等学校: 英検IBA) の実施</li><li>・グローブ推進チームと運営指導委員会による評価や指導を基にした第1年次の成果と課題のまとめ及び第2年次以降の計画の修正</li></ul></li></ul>
------	--

第2年次	<p><b>新教育課程の先行実施及び『グローブ(Globe)』カリキュラムの完成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに基づく実践と課題の明確化、改善</li> <li>・複式校におけるカリキュラムの研究（～4年次まで）</li> <li>・コミュニケーション要素における系統的な指導の実施</li> <li>・指導資料、教材の検証と改善、改訂</li> <li>・東川町在住の外国人（ALT、CIR、SEA等）の積極的活用</li> </ul> </li> <li>○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語能力調査（小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英検IBA等スコア比較、質問紙調査による評価</li> <li>・第2年次の成果と課題のまとめ及び第3年次以降の計画の修正</li> </ul> </li> <li>○ 保護者、地域への啓発・周知</li> </ul>
第3年次	<p><b>『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施・評価・改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3要素における、幼・小・中・高の円滑な接続の在り方の研究</li> <li>・コミュニケーション要素における学習内容の小中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価</li> <li>・中学校における実践的な言語活動を位置付けたカリキュラムの改善及び独自教材の開発</li> </ul> </li> <li>○ 研究発表会（ブレ研）の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、小学校、中学校、高等学校における授業公開</li> </ul> </li> <li>○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語能力調査（小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英検IBA等スコア比較、質問紙調査による評価</li> <li>・第3年次の成果と課題のまとめ及び第4年次の計画作成</li> </ul> </li> </ul>
第3年次（本年度）	<p><b>『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施・評価・改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3要素における、幼・小・中・高の円滑な接続の在り方の研究</li> <li>・コミュニケーション要素における学習内容の小中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価</li> <li>・中学校における実践的な言語活動を位置付けたカリキュラムの改善及び独自教材の開発</li> </ul> </li> <li>○ 研究発表会（ブレ研）の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、小学校、中学校、高等学校における授業公開</li> </ul> </li> <li>○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語能力調査（小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英検IBA等スコア比較、質問紙調査による評価</li> <li>・第3年次の成果と課題のまとめ及び第4年次の計画作成</li> </ul> </li> </ul>
第4年次	<p><b>新教育課程の完全実施及び新教科「Globe」研究の成果と課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3要素における、幼・小・中・高の有機的な連携についてのまとめ</li> <li>・コミュニケーション要素における学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価</li> <li>・「ローカル」・「グローバル」要素における系統的な学習内容の設定</li> <li>・補助教材・独自教材の開発・実施</li> <li>・他地域での新教科「Globe」導入及び普及についての検討</li> </ul> </li> <li>○ 研究発表会の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、中学校、高等学校における授業公開（3要素）</li> <li>・幼稚園における国際教育（外国語活動）の公開</li> </ul> </li> <li>○ 英語を用いてコミュニケーションを図る体験の場の設定</li> <li>○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語能力調査（小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英語IBA等スコア比較、質問紙調査による評価</li> <li>・児童生徒、教員、関係機関、地域等の意識調査及び分析</li> <li>・成果と課題のまとめ及び一般化のための提案（研究報告書の作成）</li> </ul> </li> <li>○ 研究開発学校指定後における新教科「Globe」の方向性の検討</li> </ul>

### (3) 評価に関する取組

第1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価             <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の授業後の振り返りシート、意識（質問紙）調査、パフォーマンス(行動観察)等による実態の把握及び分析</li> <li>・英語能力調査（中学校・高等学校：英検IBM）の実施</li> </ul> </li> <li>○ 研究推進全体に係る評価             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新教科創設にかかる運営指導委員会の指導助言（8月）</li> <li>・関係機関及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析(11月)</li> <li>・カリキュラム編成にかかる運営指導委員会の評価、指導助言（1月）</li> </ul> </li> <li>○ 教員による意識調査             <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、小・中学校、高等学校教員による意識（質問紙）調査の実施(11月)</li> </ul> </li> </ul>
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価             <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析</li> <li>・英語能力調査(小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA) 実施</li> </ul> </li> <li>○ 研究推進全体に係る評価             <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析経年比較(11月)</li> <li>・運営指導委員会の評価・指導・助言(1月)</li> </ul> </li> <li>○ 教員による意識調査             <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度における意識（質問紙）調査の継続的な実施(11月)</li> </ul> </li> </ul>
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前年度の各評価（児童生徒、研究推進全体、教員）の継続的な実施及び分析             <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析</li> <li>・英語能力調査(小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA)の実施</li> </ul> </li> <li>○ 公開研究会（プレ研）実施による検証             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程を先行的に実施し、公開研究会を開催することで外部評価により成果と課題を明らかにし、次年度への改善につなげる。</li> </ul> </li> </ul>
第3年次（本年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前年度の各評価（児童生徒、研究推進全体、教員）の継続的な実施及び分析             <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析</li> <li>・英語能力調査(小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA)の実施</li> <li>・研究報告にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言</li> </ul> </li> <li>○ 研究発表会（プレ研）実施による検証             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程を先行的に実施し、公開研究会を開催することで外部評価により成果と課題を明らかにし、次年度への改善につなげる。</li> </ul> </li> </ul>
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前年度の各評価（児童生徒、研究推進全体、教員）の継続的な実施、分析及び検証             <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析</li> <li>・英語能力調査(小学校：GTEC Junior、中学校・高等学校：英検IBA)の実施</li> <li>・各評価の4年間の集積データのまとめ</li> <li>・研究報告にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言</li> </ul> </li> <li>○ 研究発表会実施による検証             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表会を開催し、本研究4年間の成果と課題を明らかにし、まとめを行う。</li> </ul> </li> </ul>

## 5 研究開発の成果

### (1) 実施による効果

#### ① 児童・生徒への効果

##### 【幼稚園】（年間10回のGlobe）

4歳児からGlobeの活動の中でALTを活用することで、一緒に遊びコミュニケーションを図り親しみをもって接する子供の姿が多くなった。

カリキュラムで毎月の活動内容を確認し、ALTと打ち合わせながら進めることで単語や興味の引き出し方など段階を踏むことができた。

小学1年生との交流では、慣れ親しんだ歌や知っている英単語で色鬼をして交流できた。英単語の発音の仕方など自ら言ってみる経験を通して、伝え合う楽しさや自信が見られ始めた。色、食べ物、天気など身近な単語に触れてきたことで、朝の会などの生活の中でも子供自ら発言して楽しむようになってきている。

#### 【小学校】（低学年～35時間、中学年～70時間、高学年～105時間）

地域および日本（Local）や世界（Global）を扱ったGlobeの授業により、自分の地域への愛着や外国への興味・関心が昨年度よりもさらに高まっている。それに伴い、「もっと知りたい、もっと伝えたい」という意欲が高まり、他国の人と積極的に関わることができた。

コミュニケーションの目的、場面、状況に合った外部人材を昨年度より多く活用したことで、昨年度以上に英語でのやり取りに抵抗なく取り組むことができるようになった。

CAN-DOリストを作成し、児童生徒と目標を共有し、見通しをもって学習に臨ませることを通して、主体的に学習に取り組ませることができた。

#### 【中学校】（全学年～160時間）

全学年の年間指導計画（各学年160時間）ができあがり、系統性を意識しながら授業を進めることができるようになった。ALTやCIRと関わる場面が増えて、外国人の方へ英語を話す抵抗感が年々なくなってきた。体験活動を取り入れたカリキュラムになり、実体験をともなった学習活動になってきた。他教科・他領域にもLocal、Global要素を意識して教科等横断的指導ができるようにGlobe別葉を作成した。これにより、学年教員や他教科等との連携がさらに充実できるようになり、教室の中に多くの先生方が入ってくることにも慣れて、学習活動に抵抗なく取り組めるようになった。

#### 【高等学校】（第1、2学年～150時間、第3学年～100時間）

様々な国の人々との交流を多く取り入れたことにより、遠い国のことや問題について身近に感じることにつながった。幼稚園、小学校との交流などにより、正しくわかりやすく伝えるために必要な知識を習得しようと積極的な生徒も多くなった。

### ② 教職員への効果

町教委を中心として、町全体（幼・小・中・高校）でカリキュラム開発を行っていることが本町の特徴である。

アンケートのとおり、幼稚園・小学校・中学校・高等学校にわたる研究開発事業の認識が、昨年度以上に広がっている。

今年度の夏季研修会では、昨年度以上の参加者で臨むことができ、授業を中心に国際教育への意識を高めるとともに、学校種間をつなげ全教職員の共通理解を図ることができた。

### ③ 保護者への効果

国際教育に高い関心をもつ保護者が多い。

小学校では、Globeについて家庭で話題になることが多く、外国の文化に触れる地域行事への参加率も高いことから、Globeへの関心の高さが各家庭においても表れている。

中学校では、わが子への国際教育に関する期待が込められた記述が見立つようになった。下記のように、Globeの目指す「多文化共生」について書かれており、学校も保護者も同じ目的をもって児童・生徒を育てていこうとする意識が高まっていきると言える。

今後、さらに多くの方に新教科Globeに関心をもっていただき、より多くの家庭と連携しながら国際教育への意識を高めていけるように呼びかけていく必要がある。

## (2) 実施上の課題

- 単元によって、第1時以外にも単元ゴールを設定したり、単元ゴール後にさらに「文化」について考えたりする場面を設定するなど、単元デザインの多様化を図る必要がある。
- L/G要素の【思・判・表】の評価方法について検討が必要である。
- 指導案の本時案に記載した「具体的な子供の姿」について再度検討する必要がある。
- Globeの授業を苦手としている要因に「英語が嫌い・苦手」「人と関わるのが苦手」があるので、個に応じた支援を継続して進める必要がある。
- コロナ禍により、例年より外部人材の活用が減った。また、日本語学校の留学生との交流ができなかった。しかし、外部人材との関わりが効果的であることは周知の事実なので、活用する機会を増やしていく必要がある。
- L/G系統性を校種にわたって作成したので、幼・小～「体験を通して異文化に触れる楽しさ 中学校～「異文化の知識を獲得そして自己思考」、高等学校～「社会に出た時に活用していく 知恵に昇華」をねらいたい。
- 小学校・中学校の系統性をより具体的に（英語表現や言語活動）設定する必要がある。
- 教科等横断的指導について昨年度よりも進められているが、「Globe別葉」が十分に活用されていない現状がある。他教科において、つながりをもっと意識して指導していけるとよい。
- 研究発表会が延期となり、研究授業において、L/G系統性（テーマによる）を検証することができなかった。

① 東川小学校 教育課程表（令和2年度）

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動・外国語	総合的な学習の時間	特別活動	グローバル（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306		136		87 (-15)	68	68		102	34			34	35 (+35)	870 (+20)
第2学年	315		175		90 (-15)	70	70		105	35			35	35 (+35)	930 (+20)
第3学年	245	70	175	90		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	980
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1015
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1015
計	1461	365	1011	405	177 (-30)	358	358	115	597	209	0 (-210)	140 (-140)	209	420 (+420)	5825 (+180)

※ 第1・2学年については、学校裁量の時間より20時間を「Globe」に充てるため、組み替えた時数の合計と「Globe」の時数は一致しない。

東川②第一③第二④第三小学校 教育課程表（令和2年度）

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	グローブ（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306		136		87 (-15)	68	68		102	34			34	35 (+35)	870 (+20)
第2学年	315		175		90 (-15)	70	70		105	35			35	35 (+35)	930 (+20)
第3学年	245	90 (+20)	175	105 (+15)		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015
第5学年	175	105 (+5)	175	105		50	50	60	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+5)
第6学年	175	105	175	105		50	50	60 (+5)	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+5)
計	1461	390	1011	420	177 (+30)	358	358	120	597	209	0 (-210)	140 (-140)	209	420 (+420)	5870 (+180)

※第1・2学年については、学校裁量の時間より20時間を新教科「Globe」に充てるため、組み替えた時数の合計と「Globe」の合計は一致しない。

※第3・4学年及び第5・6学年は、複式学級で編成していることから、標準時数を上回って教育課程を編成している。（第3・5・6学年）

① 東川中学校 教育課程表（令和２年度）

	各教科の授業時数									道徳	総合的な学習の時間	特別活動	グローバル（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	0 (-140)	35	30 (-20)	35	160 (+160)	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
計	385	350	385	385	115	115	315	175	0 (-420)	105	130 (-60)	105	480 (+480)	3045

② 東川高等学校 教育課程表（令和2年度）

	各教科の授業時数										グ ロ ー ブ	総 合 的 な 学 習 の 時 間	特 別 活 動	総 授 業 時 数
	国 語	地 歴 公 民	数 学	理 科	外 国 語	芸 術	家 庭	体 育	情 報	商 業				
第1学年	140	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		35	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第2学年	105	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		70	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第3学年	105	140	105	140	0 (-93)	70		70	70		100	35	85 (-7)	920 (-10)
第3学年 次選択 2単位 3単位 を各1つ 選択		時事 問題 研究 70	数学 B 105	生物 研究 70	英語 表現 I 105 英語 会話 70		子 供 の 発 達 と 保 育 105	ス ポ ー ツ A 70		電 卓 基 礎 計 算 105				175（2単 位・3単位 選択の合計 ）
計	350	350	385	350	0 (-373)	210	140	350	70	105	410	175	430 (-27)	3465 (-10)
選択科目 を履修し た場合		420	490	420	175		245	420		210				

※第1学年～3学年の外国語の授業時数を「グローブ (Globe)」に充てる。また、特別活動においても国際交流・国際理解に係る行事等を計画する。

## 学校等の概要

### 1 学校名、校長名

東川町立東川小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワショウガッコウ）

校長 岸 政 継

### 2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地（TEL 0166-82-2425 Fax 0166-82-4711）

### 3 児童数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
60	2	54	2	55	2	52	2	62	2	55	2	338	12
知3 情3		知2 情6		知2 情4 言1		知1 情6 言1		知2 情1		知1 情2		知11 情22 言2	知2 情3 言1

### 4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1	1		25		1		1	
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		2	2	35						

### 1 学校名、校長名

東川町立東川第一小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイイチショウガッコウ）

校長 山 田 裕 司

### 2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西10号北24番地（TEL 0166-82-2751 FAX 0166-82-5143）

### 3 児童数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
2		5	複式1	3		5	複式1	6		6	複式1	27	複式3
知1						情1						知1 情1	知1 情1

### 4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			7		1			
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	13						

1 学校名、校長名

東川町立東川第二小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイニシヨウガッコウ）

校長 遠 藤 友 文

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北32番地（Tel 0166-82-3019 Fax 0166-82-5170）

3 児童数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
5	1	4	1	7		8	複式1	7		7	複式1	38	4
情2				情2				情1				情5	情1

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			6		1			
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	12						

1 学校名、校長名

東川町立東川第三小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイサンシヨウガッコウ）

校長 橋 早智子

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町東8号南1番地（Tel 0166-82-3015 Fax 0166-82-5183）

3 児童数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
3		3	複式1	2		2	複式1	2		2	複式1	14	複式3
知1 情1		知1				知1		情1				知3 情2	知1 情1

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			5		1			1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	12						

1 学校名、校長名

東川町立東川中学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワチュウガッコウ）

校長 松 浦 弘 泰

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町1丁目5番1号（TEL0166-82-2428 Fax0166-82-2348）

3 生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
69	2	67	2	77	3	213	7
知3 情2 病1		知2 情1		知4 情1		14	知2 情1 病1

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			19		1			1
ALT	SC/SSW	事務職員	司書	計						
1	1	1	1	33						

1 学校名、校長名

北海道東川高等学校（ホッカイドウヒガシカワコウトウガッコウ）

校長 元 村 治 郎

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町2丁目12番1号（TEL0166-82-2590 Fax0166-82-2534）

3 課程・学科・生徒数、学級数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	80	2	80	2	64	2			224	6
計		80	2	80	2	64	2			224	6

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			17		1			1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
2	1	4		25						

1 学校名、校長名

東川町立東川幼稚園（ヒガシカワチョウリツ ヒガシカワヨウチエン）

園長 安 達 啓 一

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地（TEL 0166-82-3400 Fax 0166-82-4660）

3 幼児数、学級数

5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	計
18	10	4				74人
19	10	4				8学級
		4				
		5				

4 教職員数

園長	副園長	事務長	室長	主任	教務	担任	特別支援教育 支援員	事務職員	看護師	栄養士
1	1	1		2	1	8	1	1	2	1
調理員	公務補			計	※主任兼務					
4	1			27						

